

(4) 知事コメント及び意見交換

知事： 高知市の課題として、やはり中心市街地は活性化しないといけない。エコの観点もありますが、高齢化がどんどん進んでいく中で、やはりコンパクトシティ化は必要だと思っています。中心市街地の活性化は、特定の方々の振興というイメージでとらえられる場合がままありましたが、私はそうではなく、公共目的があると思っています。さらに、地産外商につながると思っています。観光客が高知県に来て、お金を落としてくれることも外貨を稼ぐ点において地産外商だと思います。では、自分が旅行者の立場になったときに、その町のどこに行きたいか。全国どこにでもあるようなショッピングモールではなく、その土地ならではの商店街を歩いてみたくになります。だから、魅力ある中心市街地づくりは重要だと思います。いろいろな公共機関を郊外へ出しましたが、中心市街地活性化はこの10年くらいで出てきた考え方ではないかと思っています。その前に立てられた計画もあり、当時の検討からすればやむを得ない面や、土地がなかったこともあったりする。しかし、私が決める計画は、できるだけ中心市街地に残していく、もしくは持ってくる形で政策づくりをしていきたいと思っています。中心市街地の活性化の観点から、これは重要だと思います。

西武跡地の問題は、今、県民・市民の皆さんの関心が高いです。公共で買い取れないか、土地交換して公共用地にできないか、もしくは規制することができないかという意見があります。いろいろなバリエーションを検討しましたが、残念ながら公共で取得できないというのが結論です。私も高知生まれの高知育ちですから、西武跡地については思いがあります。私が生まれて初めて杏仁豆腐を食べたのが「とでん西武百貨店」で、当時「こんなにおいしい食べ物があるのか」と思いました。ただ、民間の方が取り引きをするようになって話が進んでいく中で、途中から公共が取得主体となることはできないと思っています。しかし、所有者に対しては、どれだけの思いを持った土地であるか、例えば1週間で3万人の署名が集まるだけの土地だということをお伝えし、そういうことをよく考えて事業計画を作ってもらいたいという話をしました。山内藩政時代から400年築き上げてきた高知城から今の（高知市文化プラザ）かるぼ一とくくらいまでの東西の軸がずっと中心市街地でした。私は中心市街地の活性化は、絶対に取り組みを進めたいと思っています。

東西軸の活性化プランは、昔のおまちを復活させようとするものです。今、高知県と高知市で合同チームを作って、このプランの検討を進めています。例えば、高知城にいられた20万人の方々に山内家の資料を中心とした高知県の歴史全般を味わっていただく新歴史館を、町に人を誘導していくような位置に造ることで、中心市街地の活性化ができないかと考えているところです。ただ、中心市街地の活性化のためには、地産地消に加えて、やはり地産外商を考えないといけない。中心市街地の人が減ったのはショッピングセンターが郊外にできたこともあるかもしれませんが、ただ、そもそも商圈人口が減ってきて売れなくなってきたとすれば、観光客も来られるようにすることが中心市街地が活性化し、結果として、高齢者に優しい町、エコな町になってくのではないかと思っています。先ほどの歴史館のような考え方は、観光客も呼べるものを真ん中に造っていこうという発想。それから、観光客の興味を引くようなマン

ガロードみたいなものを中心市街地に作る。水木しげるロードのある境港でうまくいっているようなやり方を、高知市でも応用することができないか。また、高知県のいろいろな産品を買ったり、見たりできるようなものを中心市街地に造ることができないか。そういうものを、2月に新京町プラザを改装してオープンする予定です。

まちづくりのプランと連動の取れた形で公共交通のトータルビジョンを描いていくことも重要だと思います。ビジョンを作ることになれば公共交通関係の皆さんに入ってもらいたいと思います。

まちづくりビジョンがあって、それに伴って公共交通を形にすることが理想ですが、そうなるとかなり壮大なことになります。私は、まず東西軸を活性化するまちづくりのプランを作り、併せて公共交通機関の活性化や公共交通体系のあり方をまちづくりの観点から検討する部会を立ち上げることができないかと思っています。

ただ、それぞれの公共交通を運行する会社の経営をどうしていくのかは、ご指摘の通り、利用者をどう増やすかが最大のポイントになると思いますが、利用者を増やすこととまちづくりをどうするかは密接に関係していると、今、教えていただきました。

あともう一つは、全国的にも、コミュニティバスなどを公共交通として町が運営しているものもあつたりします。とにかく地域の支え合いの足づくりが課題になっていて、NPOさんがやっておられるものもあります。黒潮町はボランティアベースで、二人が主体になって一人分の人件費でやっておられて、なお大赤字です。なかなか経営ベースに乗らなかつたりする。インフラとしてとらえて、できるだけ効果的・効率的で、補助金をあまりかけずにできるような仕組みを検討している最中です。高知県の場合は、人が少ないために採算が合わなかつたりするので、買い物も通院も、アイデアとしては公共サービスも、印鑑証明、住民票とかもできるように多機能型にしたらどうかなどと内部で検討し、勉強を進めさせていただいているところです。